

三重県中小企業団体中央会

業 種 名		前年同月比				業 種 名		前年同月比			
		売 上 受 注	取 引 条 件	収 益 状 況	業 界 の 景 況			売 上 受 注	取 引 条 件	収 益 状 況	業 界 の 景 況
食料品製造業	漬物	→	→	→	→	卸売業	肥料	↓	→	↓	↓
	醬油・味噌	→	→	→	→		◎卸団地(津)	↑	→	↑	→
	豆腐	→	→	↓	↓	小売業	◎商業(鳥羽)	↑	→	→	→
	日本酒	→	→	→	→		◎青果(松阪)	↓	↓	↓	↓
繊維製品製造業	◎組紐(伊賀)	↑	→	→	→		自転車	↓	↓	↓	→
	衣料縫製	→	↓	↓	↓		家電	↑	→	→	→
	テントシート	↑	→	↑	→		石油	↓	→	↓	↓
木材・木製品		↑	↑	↑	↑		スポーツ用品	↑	→	→	→
紙・紙加工品	段ボール箱	↑	→	→	→	商店街	◎熊野市	→	→	→	→
	古紙	↑	→	→	→	サービス業	自動車整備	→	→	→	→
印刷		→	→	→	→		◎宿泊施設(鳥羽)	↑	→	↑	↑
窯業・土石製品	生コンクリート	→	→	→	→		旅行業	→	→	→	→
	◎陶磁器Ⅰ(萬古焼)	→	→	↓	↓		◎飲食業	→	→	→	→
	◎陶磁器Ⅱ(伊賀焼)	↓	→	→	→		警備業	↑	→	→	↑
金属・一般機器・電気機器・輸送機器	鍍金	↑	→	↑	↑	建設業	総合工事業	↓	→	→	→
	◎機械器具(四日市)	↑	↑	→	↑		内装工事業	↓	→	→	→
	◎機械器具(久居)	↑	→	↑	→		電気工事業	→	→	→	→
	◎機械器具(伊勢)	↑	→	↑	↑		◎水道工事業(津)	→	→	→	→
	◎電気機器(鳥羽)	↓	↓	↓	↓	運輸	トラック輸送	↑	→	→	↑
	◎輸送機器(鈴鹿)	→	→	↓	→		◎不動産(鈴鹿亀山)	→	→	→	→

↑…増加・上昇・好転 →…変わらず ↓…減少・下落・悪化 ◎…地域単位の組合

情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成25年11月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	食料品	豆腐	当組合は、11月10日に「元氣まつさか産業ビジリンピック」に出展し、組合員の豆腐の品評会と即売会を行った。品評会では来場者に対して、各社の豆腐の味や食感などのアンケートを実施し、各社の参考にしてもらった。
	木材・木製品	木材	消費税増税による駆け込み需要と木材利用ポイント制度の影響により、原木及び木製品ともに需要が増加しており、売上高も増加傾向にある。
	紙・紙加工品	紙器段ボール箱	年末商戦を控え、食品及び歳暮向けの段ボールケースの生産量が増加し、比較的顕著に推移した。
		古紙	11月期の仕入重量は前年比、段ボールで96%±5%程度、新聞・チラシで93%±5%程度、雑誌・雑紙等で94%±5%程度で集荷は低調であったが、10月の雨天による集荷ずれや取引先によって集荷にばらつきがあるため前年並みの組合員もいる。円安による輸出価格が上昇している組合員もいる。 しかし、取扱重量が増えず利幅が取りづらい環境の組合員は苦しい経営となっている。
	印刷	印刷	年末に向けて仕事量は増える時期ではある。
	窯業・土石製品	萬古焼	燃料となるブタンガスの価格の高騰が激しくなっている。
		伊賀焼	伊賀焼伝統産業会館の状況は昨年同月と比べて、入館者数には変化がないものの、単価の高い作品があまり売れなかったため売上高がやや減少した。伊賀・信楽古陶会館も同様の結果であった。 しかし、平成22年及び平成23年の同月と比べると、売上高にそれほど変化はない状況である。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は、取り扱う製品により差はあるものの、前月同様増加の傾向にある。自動車関連部品及び建築金物類が前月同様増加の傾向にあり、半導体関連は11月からかなりの勢いで増産に入り、12月も同様に推移する模様である。 しかし、家電関連部品は依然不調で低迷している。
	一般機器	四日市	環境の好転や大企業の復調に支えられ、当組合の組合員各社も全体的に元気を取り戻してきた。未だ利益の面で満足できていない組合員もあるようだが、底打ちは終わって上昇傾向にある。
		伊勢	中部電力が来年4月から電気料金の値上げの申請をしているが、消費税も増税となりダブルで厳しい。中小企業にとって負担感はかなり強い。
非製造業	電気機器	鳥羽	受注が少し増加傾向であったが、ここに来て立ち止まり、組合員は受注確保の競争激化等により見通しが立っていない状況である。
	輸送機器	鈴鹿	前月に引き続き、軽自動車の生産ラインはかなり繁忙の様子である。消費税増税に伴う需要も増してきたようで、乗用車の生産・販売台数も増えているらしい。 しかし、そのような大手メーカーと一部の一次下請けの好況な気運が全く感じられないのが、二次以降の下請けの現実であり、物価の高騰を受け収益状況は悪化の一途である。
	小売業	青果	今年は悪天候により入荷が今までになく厳しかったが、ようやく11月下旬になって見通しが付いてきた。地場の野菜や果物の入荷の増加で市場も活気になってきており、年末に期待が持てるようになってきた。
		自転車	各ショップとも前年比10%以上売上が落ち込む中、11月11日に全組合員対象に「災害に強いノーパンク自転車」等の技術研修会を開催したところ、今までに例のない多くの参加があり盛大に行うことができた。 今、自転車業界大手が進めている、小売りが生産まで関与するプライベートブランドは利益の源になっている。これからの時代、選別されなくなる問屋と小売店。工夫次第で勝ち残る方法はあると思う。

非製造業	小売業	家電	11月は前年以上の販促催事を実施することができた。 商品別としては、エアコンが好調に推移しており、その大型商品も前年の実績を確保できた。テレビは大型新商品が市場に浸透して販売単価のアップが図れた。 消費税増税の影響は未だ出ていない。
		石油	11月期の県内の自動車燃料油の販売数量は、前年対比5%～6%前後の厳しい減少状況である。季節商品である灯油の販売数量は、例年より冬の訪れが早いため、増加している。 燃料油全体の収益状況については、販売数量が総じて減少するとともに油外商品の販売も低迷したことから、かなり厳しい状況であった。
		スポーツ用品	11月は、ウィンドブレーカー等冬季の商品の受注がかなりある時期であり、組合員各店舗かなり納品に忙しそうであった。しかし、競技スポーツがオフシーズンになるので、設備用の営業に切り替え販売促進に頑張っているところである。 県においては三重国体を準備する部署ができ、津市に体育館の建設が始まるようであるので、少し明るい兆しが見えてきたように思う。
	商店街	熊野	昨年好評であったグルメとスイーツのイベント第2弾を開催したところ、売り切れになる店舗もあり、終了時間まで来客も多く賑わいがあった。 また、昨年荒天のため延期となった熊野の冬花火が今月よりスタートした。来年3月までの毎月第4金曜日に開催し集客を図る。但し、この冬花火と連携して、商店街を含めた市街地への集客が課題である。今後は、花火当日の夜店やイベント等の集客事業が必要であると思われる。
	サービス業	旅館（鳥羽）	遷宮効果によりツアー客も多い。 人員不足のため雇用については減少となっている。前年と比較することはできない状況である。
		飲食業	大手ホテルチェーンや飲食店等において、メニュー等への誤表示が行われるなど連日の報道がなされ、消費者の信頼を揺るがす大きな社会問題になっている。 このことについては、全国団体からも組合員等に対して適正な表示の徹底について指導するよう通知がなされており、当組合としても事例周知や適正表示に向けた研修会等を積極的に行い、再発防止に取り組まなければならないと考えている。
		警備業	今期は例年同様、発注が多く、警備員数が不足気味であった。
	建設業	内装工事業	9月及び10月と同様、前年同月の値が良かったため、今月も売上高が減少となった。 組合員は年末にかけて忙しくなってきており、人員が不足している状況である。やはり消費税増税前の駆け込み需要が影響していると思われる。
		水道工事業（津）	業務量の割に収益率が低く厳しい状況である。
	運輸業	トラック	貨物輸送の需要が増加傾向であるが、燃料である軽油の価格が高騰した状態であり、収益の改善にまでは至っていない。

行政庁・中央会に対する要望事項		
集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
一般機器	四日市	（中央会あて）中小企業の現状を行政官庁へ正しく伝え、諸施策の速やかな実行を申し入れてほしい。
建設業	水道工事業（津）	社会インフラに係る老朽化対策予算の確保を強く要望してほしい。
運輸業	トラック	燃料高騰に対する緊急支援措置対策の実施を求む。